

ウイルス性肝疾患の母子感染防止に関する研究

(分担研究：ウイルス性肝疾患の母子感染に関する研究)

白木和夫、原田友一郎

要約 HBe抗原陰性キャリア妊婦からの出生児の自然経過を観察した場合、7.2%にHBV感染が認められており何等かの予防処置が必要と考えられた。予防処置としては今回の結果からはいずれが優るとは言えないが、HBIG単独投与を行ったにもかかわらずのちB型劇症肝炎を発症した報告もあり、公費によるHBIGとHBワクチンの併用が望ましいと考えられる。

見出し語：HBIG、HBワクチン、HBe抗原陰性キャリア、

1. HBe抗原陰性キャリア妊婦からの出生児の
自然経過と予防処置の検討

1) 対象と方法

HBe抗原陰性キャリア妊婦からの出生児423例を対象に、その自然経過および予防処置に関する検討を行った。自然経過を観察した症例が139例、予防処置としてHBIG1回投与を行った症例が95例、HBIG、HBワクチン併用投与を行った症例が124例、HBワクチン単独投与を行った症例が65例であった(表1)。結果はHBs抗原陽性化、HBs抗体陽性化、HBc抗体再上昇によってその効果を判定した。

2) 結果並びに考案

母親のHBe抗原が陰性で自然経過観察例である139例のうちHBs抗原が陽性となった例は7例、HBs抗体が陽性となった例は3例、HBV感染が認められなかった例は129例(92.8%)であった(表2)。予防処置としてHBIG1回投与を行った例では95例中1例でHBs抗体が陽性化したのみであった。HBIG、HBワクチン併用投与を行った124例では1例でHBc抗体の再上昇が認められた。HBワクチン単独投与を行った65例では全例HBV感染徴候は認められなかった。

鳥取大学医学部小児科

自然経過を観察した場合、7.2%にHBV感染が認められており何等かの予防処置が必要と考えられた。予防処置としては今回の結果からはいずれが優るとは言えないが、HBIG単独投与を行ったにもかかわらずB型劇症肝炎を発症した報告もあり、HBIGとHBワクチンの併用が最も望ましいと考えられる。

2. HBe抗原陰性HBVキャリア妊婦からの出生児に対する予防処置について

1) 方法

昨年、全国の大学病院小児科、小児病院内科および300床以上の総合病院小児科合計650施設を対象としてHBe抗原陰性HBVキャリア妊婦からの出生児に対する垂直感染予防措置に関しての実態調査を行った結果、約90%の施設で既に何らかの垂直感染予防処置が行われている事が明らかになった(図1)。今回は一般診療施設を含む産科施設での予防処置状況

を調査するためのPilotとして、鳥取県下の一般診療施設を含む産科48施設を対象に調査を行った。

2) 結果および考察

回答が28施設から得られ、回収率は58.3%であった。このうち現在分娩休止中の施設は11施設であった。鳥取県下の年間出生数は約6000であり調査用紙の年間分娩数は約3000でありほぼ50%を占めると考えられた。このうちHBe抗原陰性の母親の児は約50名で1.7%であった。

予防処置の内訳を図2に示す。

一般診療施設を含む産科施設では予防処置の施行率は65%と小児科施設に比してやや低いが高率に実施されていた。現在HBe抗原陰性HBVキャリア妊婦からの出生児に対する処置は私費で行われていることから本人負担がかなり高額となる。公費による援助が早急に必要と考えられた。

表1 予防処置の有無について

予防処置	例数	母親のHBe抗原 / 抗体			
		- / +	- / -	- / ?	
自然経過観察例	139	118	18	3	
HBIG 1回投与	95	85	7	3	
HBIG, HBワクチン併用投与	124	105	17	2	
HBワクチン単独投与	65	54	10	1	
	423	362	52	9	

表2 予防処置の有無とHBV感染について

	HBsAg 陽性化例	Anti-HBs 陽性化例	Anti-HBc 再上昇例	HBsAg/Anti-HBs いずれも陰性例	計
自然経過観察例	7 *	3 **	0	129	139
HBIG1回投与	0	1 ***	0	94	95
HBIG、HBワクチン併用投与	0	0	1 *	123	124
HBワクチン単独投与	0	0	0	65	65
計	7	4	1	411	423

: 母親のHBeAg/anti-HBeは1例のみいずれも陰性
 ## : " " は陰性 / 陽性
 ### : " " は陰性 / 陽性
 * : " " は陰性 / 陽性

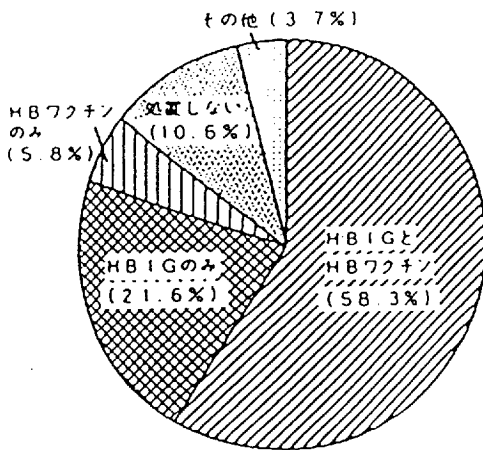


図1 小児科施設での処置の内訳 (平成4年)

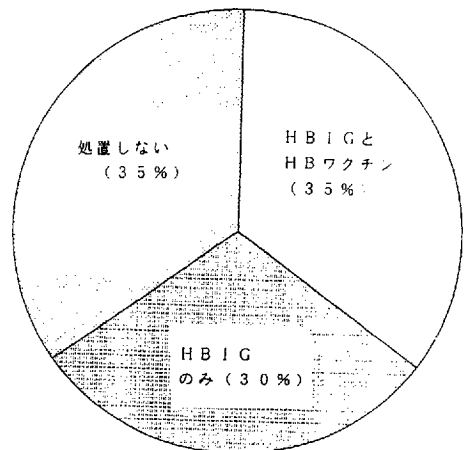


図2 鳥取県下産科施設での処置の内訳



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 HBe 抗原陰性キャリア妊婦からの出生児の自然経過を観察した場合、7、2%に HBV 感染が認められており何等かの予防処置が必要と考えられた。予防処置としては今回の結果からはいずれが優るとは言えないが、HBIG 単独投与を行ったにもかかわらずのち B 型劇症肝炎を発症した報告もあり、公費による HBIG と HB ワクチンの併用が望ましいと考えられる。